

#65 “The Spirit of the River” Furigana Script

かわひめ
「川 姫」

むかし むら おとこ ひと
昔、ある村に、男の人がいました。

おとこ ひと なまえ たろう たろう つ す
男の人の名前は、太郎です。太郎は、釣りが好きです。

ひ たろう かわ つ い
ある日、太郎は川へ釣りに行きました。

かわ さかな ぜんぜん
でも、その川に魚が全然いません。

ひ たろう いっぴき さかな つ
その日、太郎は1匹も魚を釣ることができませんでした。

たろう おも
太郎は、思いました。

きょう さかな つ きょう
「どうして？ 昨日は、たくさん魚を釣ることができた。でも、今日は……」

たろう さかな つ
太郎は、魚を釣ることができませんから、釣りをやめました。

かわ tabako す
そして、川のそばで、タバコを吸っています。

かわ なに たろう み
川に、何かいます。太郎は、よく見ました。

ぎんいろ こい
そこには、銀色の鯉がいました。

たろう おも
太郎は、思いました。

こい
「おっ、鯉だ！ これは、めずらしい！」

たろう tabako ひ け かわ なか はい
太郎は、タバコの火を消して、川の中へ入りました。

こい およ
鯉は、とてもきれいです。ゆっくり泳いでいます。

たろう て こい つか
太郎は、手で鯉を捕まえたいです。でも、できません。

こい およ
鯉は、泳いでいます。

たろう つか なんかい
太郎は、捕まえたいですから、何回もがんばります。

でも、こい つか
鯉を捕まえることができませんでした。

たろう
太郎:「あれ? ここは、どこ?」

たろう まわ み
太郎は、周りを見ました。

たろう まえ おお しろ
太郎の前に、大きな城があります。

そして、そのまわ
周りにたくさん さかな およ
魚が泳いでいます。

たろう かわ なか しろ まえ
太郎は、川の中の城の前にいます。

こい い たろう まえ
あの鯉は、どこかへ行きました。もう太郎の前にいません。

たろう おお しろ なか はい
太郎は、大きな城の中に入りました。

すると...

たろう
太郎:「うっ、あれ?・・・」

たろう ねむ たろう ね
太郎は、とても 眠いです。そして、太郎は 寝ました。

たろう ね
太郎は どのくらい 寝ましたか。わかりません。

たろう お おお へや
太郎は、起きました。そこは、とても 大きな 部屋でした。

たろう おも
太郎は、思いました。

「えっ!? どうして、ここに? ここは、しろ なか 城の 中?」

すると、ドアが あ 開きました。

おんな ひと おんな ひと
女 の人が います。とても きれいな 女 の人です。

おんな ひと たろう き い
女 の人は、太郎の そばに 来ました。そして、言いました。

「ここは、にんげん き きょう
人間が 来てはいけません。今日は、いいです。

でも、つぎ ぜったい こ
次は 絶対に 来ないでください。

そして、しろ はな
この城のことを だれにも 話さないでください。いいですか?」

たろう かぞく とも
太郎:「…はい、でも… 家族や 友だちも だめですか?」

おんな ひと はな
女 の人:「だれにも 話さないでください。

しろ はな し
この城のことを 話すと… あなたは 死にますよ。」

すると、たろう ねむ たろう ね
すると、太郎は、また 眠いです。太郎は、また 寝ました。

たろう ね
太郎は どのくらい 寝ましたか。わかりません。

たろう お かわ しろ
太郎は、 起きました。そこは、 川 でした。あの城は ありません。

たろう かわ で
太郎は、 川 から 出ました。

そして、 tabako す ほん よ
そして、 タバコ を 吸いました。それから、 本 を 読みました。

たろう しろ おんな ひと おも だ
太郎は、 あの城と きれいな 女 の 人 を 思い出しました。

たろう こわ
太郎：「…怖い…」

たろう て あし ふる
太郎の 手 と 足 が 震えています。

すると、 かわ ほん お
すると、 川 に 本 が 落ちました。

ほん とも ほん とも たいせつ ほん
この本は、 友だちの 本 です。友だちの 大切な 本 です。

たろう いそ かわ なか はい
太郎は、 急いで、 川 の 中 に 入りました。

おんな ひと き し
女 の 人：「来てはいけません。死にますよ。」

あの きれいな おんな ひと こえ
あの きれいな 女 の 人 の 声 です。

たろう かわ なか ほん
太郎は、 川 の 中 の 本 を とりませんでした。

つぎ ひ たろう あたら ほん か
次の日、 太郎は、 新しい本 を 買いました。

そして、 とも あたら ほん
そして、 友だちに その 新しい本 を あげました。

でも、友だちは ^{とも} ^い 言いました。

「これは ^{わたし} ^{ほん} 私の本じゃない! ^{わたし} ^{ほん} 私の本は?」

たろう ^{かわ} ^{ほん}
太郎:「ごめん。川に本が…」

とも ^{わたし} ^{ほん} ^{かえ}
友だち:「えっ!? 私の本を返して!」

たろう ^{かわ} ^い ^{かわ} ^{なか} ^{はい}
太郎は、あの川に 行きました。そして、川の中に 入りました。

たろう ^{とも} ^{ほん} ^{さが}
太郎は 友だちの本を 探しています。でも、ありません。

たろう ^{なが} ^{じかん} ^{ほん} ^{さが}
太郎は、長い時間、本を 探しました。

すると、あの ^{おお} ^{しろ} ^{まえ} ^き 大きな 城の 前に 来ました。

しろ ^{もん} ^{とも} ^{ほん}
城の 門の ところに、友だちの本が ありました。

たろう ^{すこ} ^{もん} ^{なか} ^{はい}
太郎は、少しだけ 門の中に 入りました。

そして、^{とも} ^{ほん} ^と 友だちの本を 取りました。

たろう ^{かえ}
太郎は、すぐに 帰りたいです。

でも、^{たろう} ^{まえ} ^{おんな} ^{ひと} ^き 太郎の 前に、あの 女の人 が 来ました。

^{おんな} ^{ひと} ^き ^こ ^い
女の人:「また 来ましたね。来ないでくださいと言いました。

でも、あなたは…」

すると、きれいな ^{おんな} 女 ^{ひと} の人 ^{かお} の顔 ^{からだ} や体 ^か が変わりました。

もう ^{おんな} 女 ^{ひと} の人ではありません。

それは、川 ^{かわ} の妖怪 ^{ようかい} でした。とても ^{こわ} 怖い ^{こわ} です。

^{たろう} 太郎 ^{たろう} は、とても ^{たろう} びっくり ^{たろう} しました。

そして…

^{つぎ} 次 ^ひ の日 ^{たろう} 、太郎 ^{とも} の友 ^{かわ} だち ^き が川 ^き に来 ^き ました。

^{とも} 友 ^{たろう} だち ^{たろう} :「太郎 ^{たろう} 、太郎 ^{たろう} !!」

^{たろう} 太郎 ^{かわ} は川 ^し で死 ^し んで ^し いました。

Notice:

- Unauthorized reproduction or distribution of this material is prohibited.
- This PDF is for personal use only.
- For any inquiries or permissions, please contact us.